

富士見市防災環境カルテ
鶴馬関沢町会

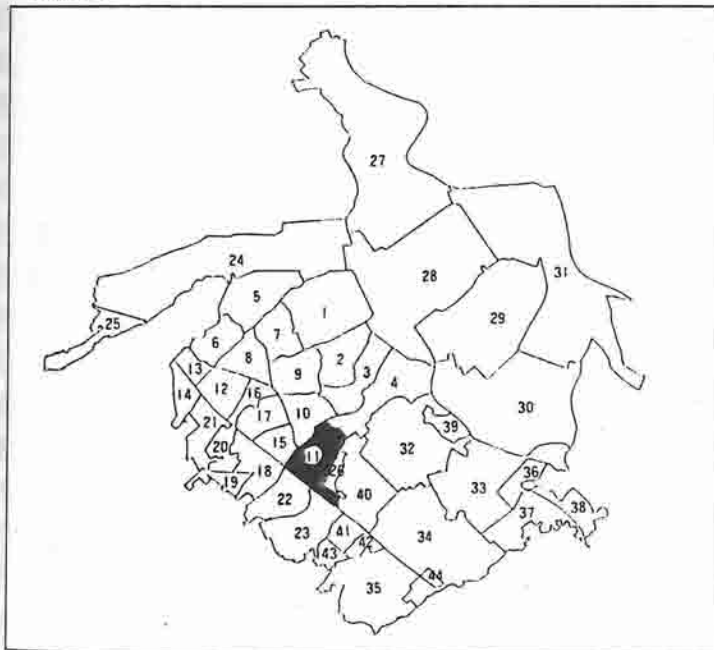
位置番号 11

・概況

鶴馬関沢町会は、富士見市の南西部に位置し、北側は急崖地（段丘崖（急））、東側は低地（富士見江川が流れる谷底平野）、西側は台地で形成されている。環境は、武蔵野台地と畑に囲まれた良好な地域である。北西には県道三芳・富士見線が通り、南西には東武東上線が通っている。北部に氷川神社、中央に来迎寺があり、町会の避難所に指定されている。水害履歴では、台風に伴う大雨により富士見江川が溢水するため、その周辺の家屋が浸水する内水災害が発生している。しかし、現在、富士見江川（上流部）の改修工事が進み内水災害の発生は少なくなってきている。ただし、氷川神社の南側、来迎寺の西側の畑、及び東武東上線の線路沿いの低い所では冠水等の内水災害が発生しやすい。地震災害は、低地、浅い谷に盛土して宅地化された住宅地内の木造建物の倒壊、出火、延焼の危険性がやや高いと予想される。また、液状化の恐れがある。

急崖地の擁護壁の異常の有無を定期的に点検する必要がある。

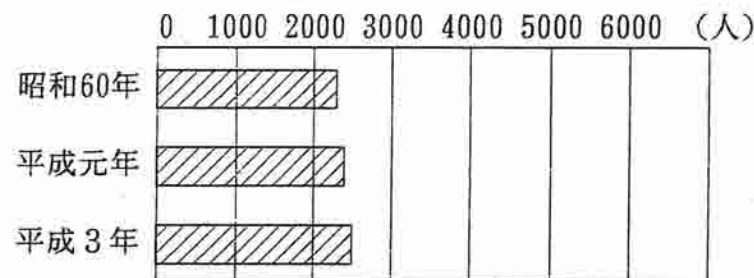
・位置図



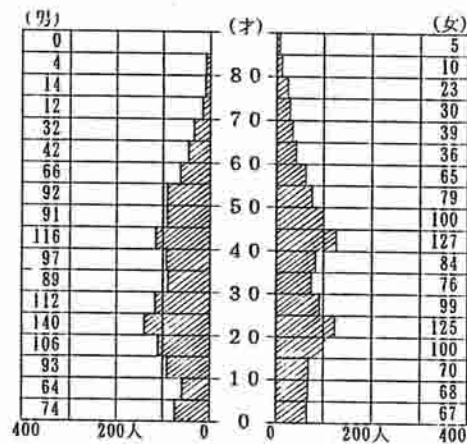
1. 基礎指標

・面積	0.292 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,262人
女	1,230人
計	2,492人
・人口密度	8,534.2人/km ²
・寝たきり老人数	8人
・ひとり暮らし老人数	20人
・世帯数	922世帯

・人口推移



・年令別人口(平成3年)



・商住工混在率住居系	91.5%
店舗系	4.6%
工業系	3.9%

富士見市防災環境カルテ
鶴馬関沢町会

位置番号 11

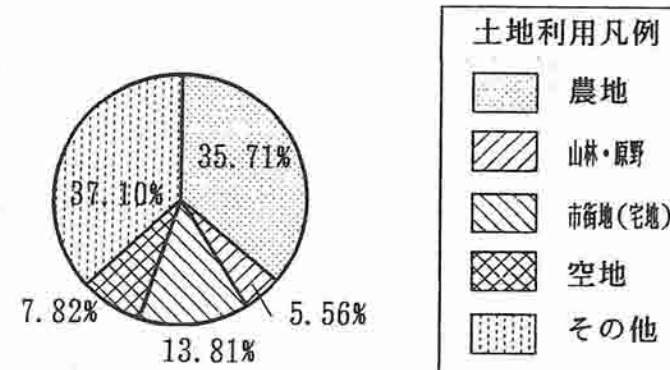
・町会現況図



・用途地域図



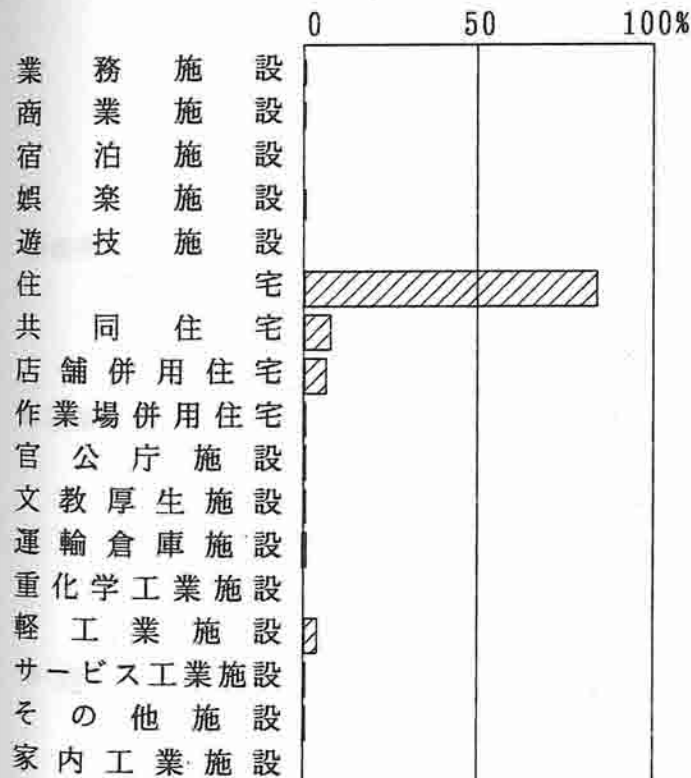
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	791棟	
・木造建物	610棟	
・非木造建物	181棟	
・建物面積	34,465.10㎡	
・木造建物	26,402.60㎡	
・非木造建物	8,062.50㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	84.8%	
・木造率	77.1% (610棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	30棟	
・同上率	5.1%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	190棟	31.1%
2階以上	420棟	68.9%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	26本	89.0本/㎢
・幹線道路率	2本	6.8本/㎢
・公共空地面積	9,801.1㎡	
・公共空地率	3.4%	
・1人あたり公共空地	3.9㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 氷川神社*	4,712.6㎡	
6. 来迎寺*	5,088.5㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	16本
・1消火栓あたり世帯数	57.6世帯/本
・消防水利貯水施設数	3 (2) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	富士見市消防団第3分団

5. 危険物指標

・給油取扱所	1か所
・一般取扱所	0か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	1か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(氾濫18号)	20棟	6棟	か所
" 58年 7月(大雨)	104棟	9棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害(年 ~ 年)			0件
・火災出火件数(年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	0か所	
医院	1か所	わたなべ整形外科皮膚科
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	1か所	鶴馬2丁目排水ポンプ場
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

8. 危険度評価

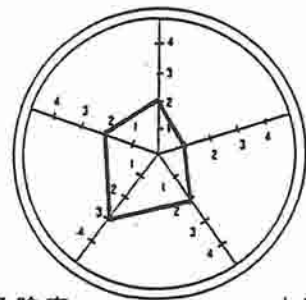
・内水災害危険度	2ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	2ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	浅い谷	2	台地	1ランク
危険度	液化危険度	"	3	"	2ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4

内水災害危険度



木造建物被害危険度

木造建物出火危険度

木造建物延焼危険度

※ 想定震度 台地 5(+) (強震(強))
 低地 6(+) (烈震(強))
 浅い谷 6(-) (烈震(弱))

9. 地盤条件

地盤は、台地部で硬く、低地部で軟らかい。台地部で震度5(+) (強震の強い方)、低地部で震度6(+) (烈震の強い方)、浅い谷で震度6(-) (烈震の弱い方)の地震が予想される。低地部は、鶴馬3丁目7番地、8番地、9番地、20番地にあたる。浅い谷は、鶴馬3丁目21番地、関沢1丁目7番地、8番地にあたる。

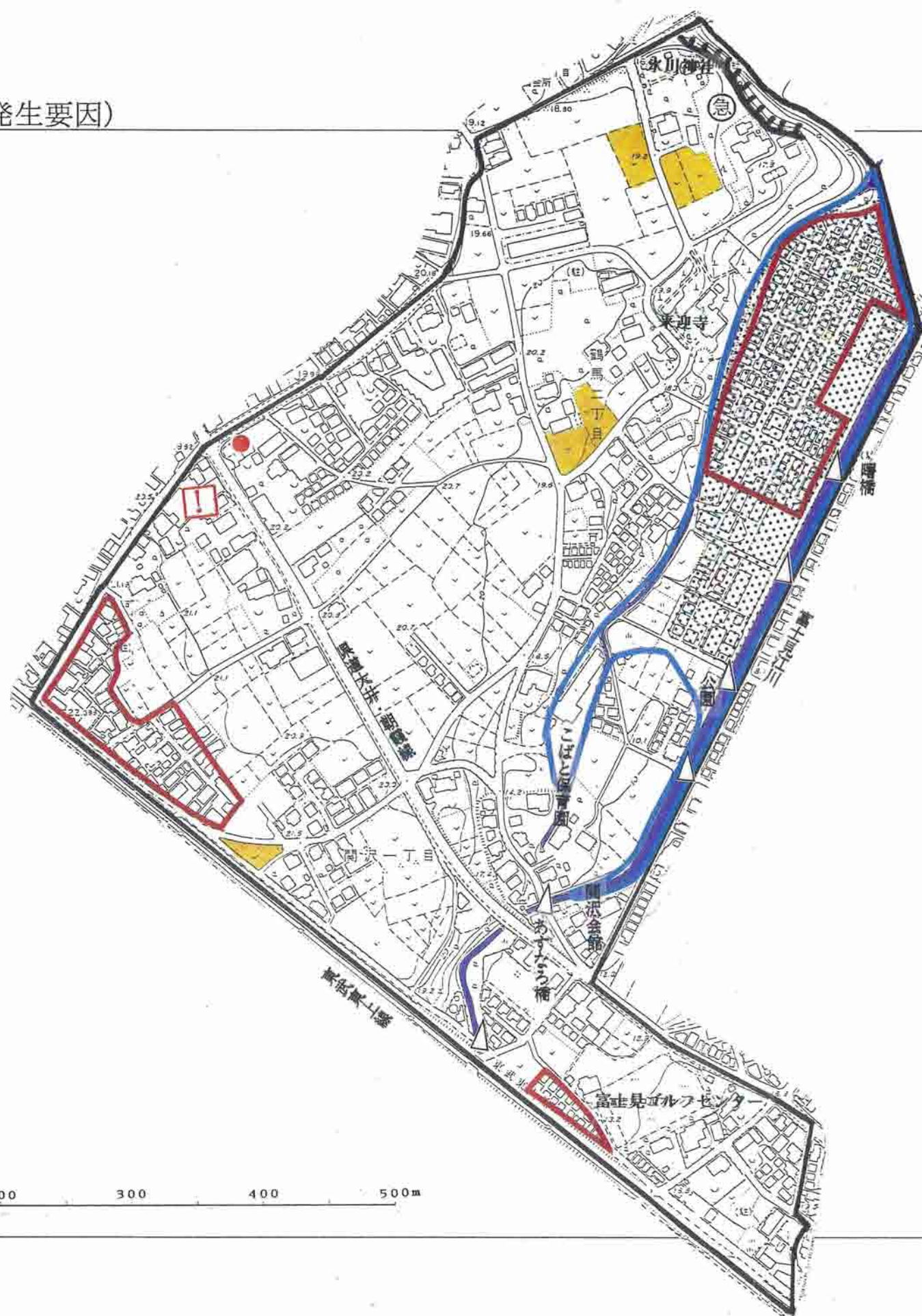
10. 問題点の整理

災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	富士見江川の改修工事が進み低地部での発生が少なくなった。しかし、台地部で下水の溢水のため畑が冠水する被害が見られる。	1. 水防能力	水防施設は、鶴馬2丁目排水ポンプ場が1箇所設置されている。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	低地の住宅地で木造建物の倒壊の恐れがややるので注意を要する。	3. 消防能力	世帯数に比較して消火栓数が少ない。延焼の危険性のやや高い住宅地内では、生活道路の幅員が狭いため消防車の消火活動に支障をきたす。
4. 出火危険	出火の危険性は低い。	4. 防火能力	木造家屋密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が50%~70%と低いため、低地の住宅密集地で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いので注意を要する。	5. 避難収容力	町会内に氷川神社、来迎寺が避難所に指定されているが収容力は低いため、みずほ台小学校(水谷第8町会)を共用する。 1人あたりの公共空地は3.9㎡/人と見込まれる。
6. その他の災害	低地部(鶴馬3丁目5番、6番地、7番地、8番地内)で液化化が予想される。		

11. 解決の方向性

低地部の住宅密集地では、地震火災、液化化の危険性がやや高いと予想されるため、消防能力の向上(消火栓の増設、生活道路の事前評価と対策)、防火能力の向上(不燃化の促進)など、また、この地域に建設が予定されている建物については、液化化対策の指導が望まれる。避難可能な道路は、主として幹線道路を使用するため、この道路に沿ったブロック塀の倒壊、また自動販売機の転倒による道路の狭隘化を予防するための対策指導が望まれる。

防災現況図A(災害発生要因)

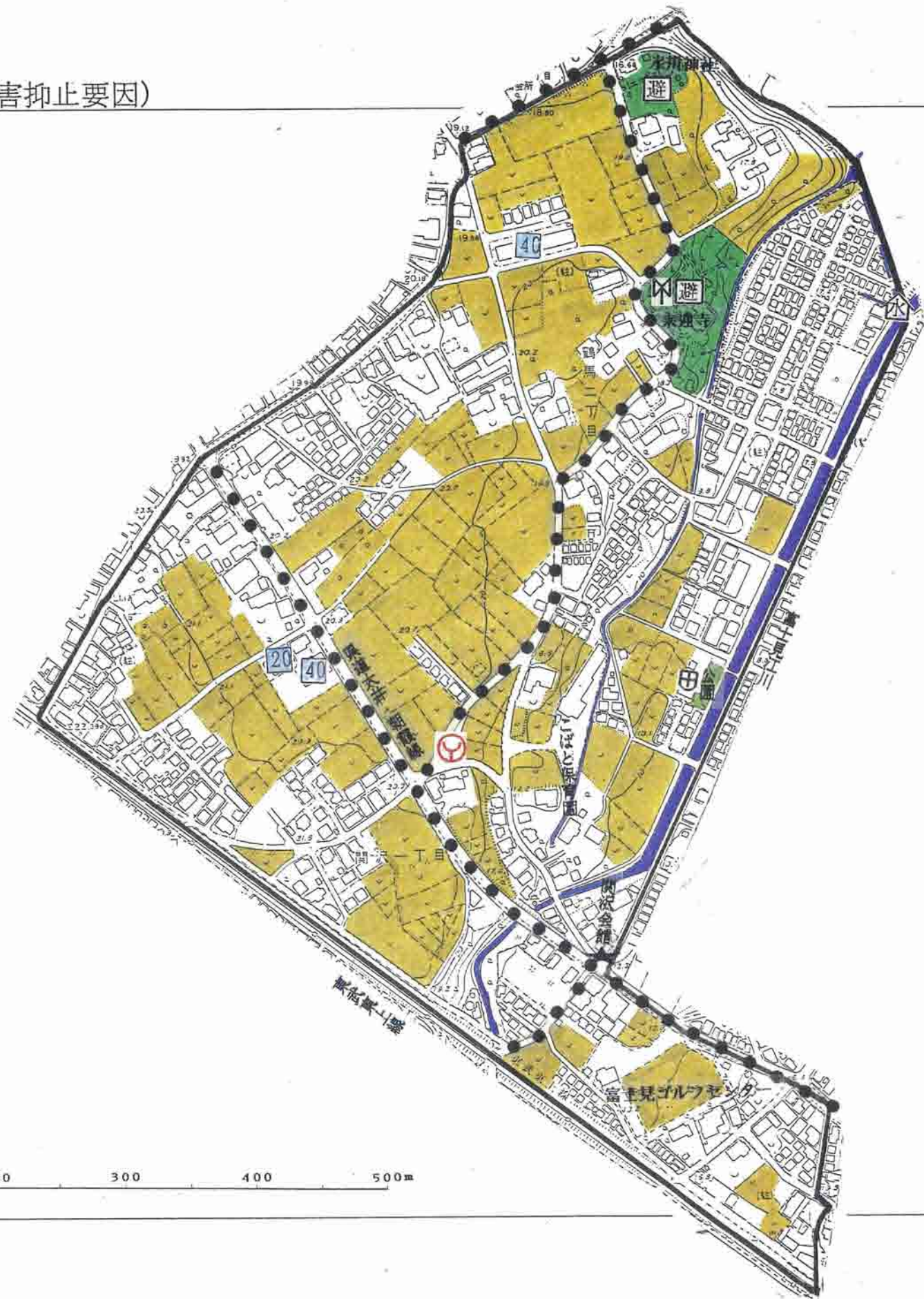


凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立体交差
■	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
■	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水地域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水地域
■	床下浸水地域



防災現況図B(災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河 川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

0 50 100 200 300 400 500m

